

編 集 後 記

ここに本大学院研究科紀要である「法政論集」第20巻を刊行します。今回は、MJ22生（2023年度の修了者）の審査に合格した全員の修士論文の要旨6本および2本の論文本文を収録しています。

本論集の論文本文は、いずれも修了者の希望に基づき掲載しているものですが、要旨・本文とも掲載するか、または要旨だけの掲載にとどまるかはともかくとして、これが研究成果の集大成としての発表であることには変わりありません。

この発表（刊行）により、修了生は、外部からの評価を受けることになります。そして、この機会を、修了生にとって今後の社会活動でのさらなる学びにつながることでしょう。編集に関わった者としては、修了生には、今後この機会を活かしてもらうことを期待するとともに、本誌を手にしていただいた方々には、温かい建設的な評価を希望するものです。今後も、本誌が修了生にとって適切な研究発表の場となるよう、編集委員一同努めて参ります。

末筆になりますが、刊行にあたり、ご尽力いただいた編集委員および大学院事務職員の方々にはありがとうございました。記して謝意を申し上げます。

（鈴木/記）

編 集 委 員（教員）

○鈴木 博康 神 陽子 吉村 真性 （○印委員長）